

堀辰雄文学記念館

所在地 長野県北佐久郡軽井沢町追分

油屋の横の家からここに移り住み、ここが終焉の地となった。この家で多恵さんと何回か話したことがある。堀さんにはここでは会ったことがない。新築の家は堀辰雄は知らない。中仙道から奥まったところに現在、「堀辰雄文学記念館」が建っている。この記念館を建てるため、多恵さんは近くの家に移り住んで行った。そこは時間がなく訪ねたことがない。記念館は一度訪ねたことがある。記念館の写真はない。



新築(堀辰雄は知らない)



記念館はここに入った所にはあり旧家ではない

手前が道は中仙道



新築の内部

後→
ろの山は、清閑山



巖
増辰雄終焉の家
←

この家では、恵さんと
何回か話し合った
あの子



書庫
←
（現在は、この本は、文学記念館）
に預けられている

堀辰雄山莊

所在地 長野県軽井沢町長倉 202-3 軽井沢高原文庫の敷地内(塩澤湖畔近く)

昔長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢 1412 にあった山莊(この山莊の庭で何度かお茶を飲んだことがある。誰とだったか思い出せない。)これが現在 高原文庫の敷地内に移転している。

堀辰雄は明治三十七年十二月二十八日、麴町平河町に堀浜之助と西村志気との間に生まれる。志気は辰雄が三歳の時、向島小梅町の妹を頼って家を出る。明治四十三年父は死亡。

志気は向島須崎町に住む彫金師、上条松吉に片付いたのは、明治四十一年、辰雄が五歳の時である。昭和十三年四月、加藤多恵子と結婚。(三十五歳) 軽井沢に新居を定める。

辰雄は昭和二十八年五月二十八日、信濃追分の自宅で死去。(四十九歳)

多恵子夫人は平成二十二年四月十六日死去。(九十六歳) 墓は多摩霊園にある。(281号29位)



軽井沢高原文庫
←





堀辰雄の住んだ軽井沢四三の山荘

昭和十六年の暮、あまの山小屋には、四年経
けて初夏から秋にかけて通じた。軽井沢でも古
い古い建物の一つに数えられている。大正七
八年頃、アメリカ人スミスさんの所有となり、
戦争で帰国するまでになって、私たちが譲り受
けた。よく燃える暖炉があり、炭で焚く風呂が
あった。厳しい冬を過ごすために道分に移ってか
ら後、この山小屋には、戦争中住む家を失った
ドイツの婦人が住んでいたこともあった。辰雄
の没後、深沢省三、紅子画伯夫妻が大切に住ん
で下さったので、やっと今日まで持ちこたえて
来たが、崩壊寸前で「高原文庫」のかたわらに
「堀辰雄の愛した山荘」として移築され、残さ
れぬようにしたのである。

—堀多恵子「私たちの家」より—

堀 多恵子さん（ほり・た
えこ）随筆家、小説家・故堀
辰雄さんの妻、本名堀多恵
（ほり・たえこ）16日、肺炎
で死去、96歳。葬儀は20日正
午から長野県軽井沢町追分51
の37の日本基督教団軽井沢追
分教会で。遺族代表は養女の
夫菊地俊二さん。
1938年に結婚。夫の思
い出をつづつた「山ぼうしの
咲く庭で」などの著書がある。



(1999年8月15日 堀辰雄の山荘 (第六十号) 浅野月六日四月二十二年平村夫人多恵子)

堀辰雄住居跡

所在地 東京都墨田区向島 1-7-6

堀辰雄住居跡

所在地 墨田区向島一丁目七番六号

作家 堀辰雄は明治三十七年（一九〇四）千代田区平河町に生まれましたが、同三十九年故あって母志気と共に生家を出て向島小路に移り住みました。

同四十一年、母が条氏と再婚したため、須崎町の同家に入り四十三年、この地に住むようになりました。

ここから牛島小学校(本所高校の位置)へ通い、やがて府立三中一高、東大へと進学しています。

夫人多恵氏の「道の花」に

「向島の家はなつかしい。今は建て直してすっかり外観を異にしてしまったが、あの竹の植わっていた小さい玄関……辰雄はそんな自分の家を、「雀のお宿」と呼んでいた……」

辰雄は「風立ちぬ」などのすぐれた長編小説をのこしていますが、「菜穂子」のような本格的長編もあり、独自の孤高の文学の悦界を描いています。

平成五年七月

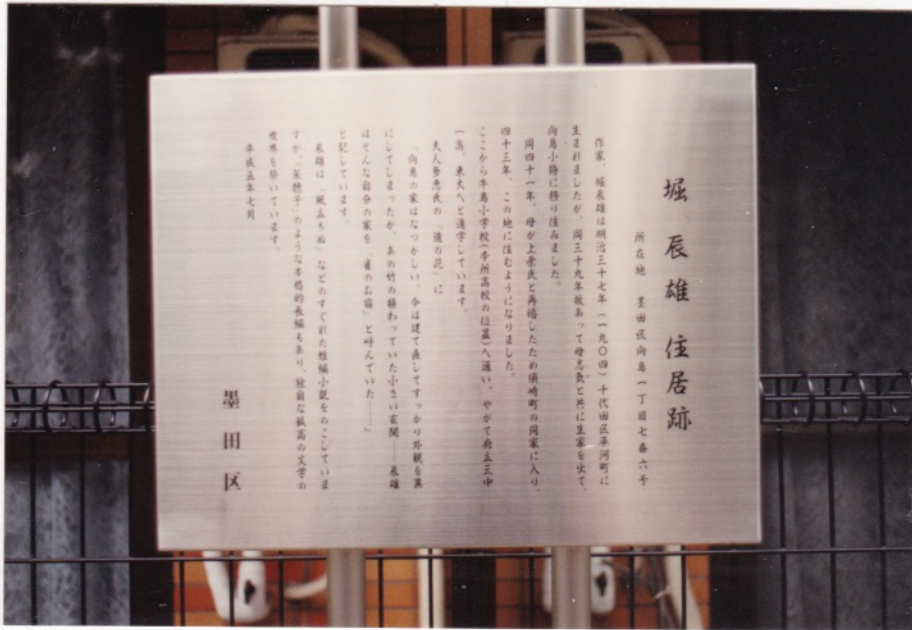
墨田区



終
菜穂子の家

長
脚
新
北
久
御
路
井
浪
町
連
合
の
家
新
築
の
家
(
辰
雄
は
こ
の
家
を
知
ら
ず
)

堀辰雄 住居跡



堀辰雄 住居跡

所在地 墨田区向島一丁目七番六号
 作楽 堀辰雄は明治三十七年（一九〇四）千代田区五本河町に生まれましたが、同三十九年秋あって母と父と共に墨田を出て、向島小橋に移り住みました。
 同四十一年、母が上乗氏と再婚したため、同町の新家に入り、四十二年、この地に住むようになりました。
 ここから向島小学校（各州高校の前身）へ通い、やがて府立三中（一高）東大へと進学しています。
 夫人香島氏の「蓮の花」に
 「向島の家はなつかしい。今は建て直してすっかり容貌を異にしてしまったが、あの竹の蔭にわづらひた小さい花間、辰雄はでんご自分の家を、蓮のお蔭」と呼んでいた。
 辰雄は「眠るちね」などのすぐれた短編小説をのこしています。辰雄子のような多感的表現もあり、俊敏な敏高の文学の世界を歩いています。
 平成五年七月

墨田区

夫と妻の二人の生活の足跡をたどる。向島小橋の向島小学校の跡地。蓮の花の庭。辰雄の住居跡。墨田区向島一丁目七番六号。辰雄の住居跡。墨田区向島一丁目七番六号。辰雄の住居跡。墨田区向島一丁目七番六号。



堀辰雄の住居跡（向島小橋）
 墨田区向島一丁目七番六号

← 堀辰雄の住居跡

塚辰雄墓

塚多恵墓



裏面共に文字なし

多磨霊園 (12区1種3号29149)